

変異コロナ 77カ国・地域に

英国、南アフリカ、ブラジルでそれぞれ拡大し、強い感染力が指摘される新型コロナウイルスの三つの変異型が少なくとも世界七十七カ国・地域に広がったことが英大など調査で分かった。いずれも日本でも確認され、市中感染の懸念が強まっている。現行ワクチンの効果には不明な部分もあり、接種が進んでも死者や重症者の増加を防げない恐れが残る。各国は変異型に対応した新ワクチン開発の準備を急ぐ。

死亡率が従来より高いとの見方がある英国型は約七十カ国・地域に広がり、ワクチンが効きにくいともされる南ア型は約三十カ国・地域、再感染の恐れが強いとされるブラジル型は九カ国・地域で確認された。

これらが最初に報告されたのは昨年九月～十二月だとい、日本では十一月～今年一月、最大一・七倍と言われる。英

各国変異ウイルスの主な特徴

- 英国**
 - 感染力、最大1.7倍
 - 死亡率が高い恐れ
 - ワクチン、一定の効果
- 南アフリカ**
 - 感染力、最大1.5倍
 - ワクチン効果、不明
- ブラジル**
 - ワクチン効果、不明
 - 再感染リスク高い疑い

英型 感染力最大1.7倍 高死亡率も

南ア型 ブラジル型 ワクチン効果不明

国では一月、一日当たりの感染者数が昨年春のピークの十倍以上に達した。

ブラジル型は再感染例が既に報告されている。北西部アマソナス州の州都では昨年十月までに住民の多くが一度感染し、集団免疫を獲得したとの見方もあったが、再び感染者が急増。最近の同州の感染者約九割が変異ウイルスによるとみられる。

日本の国立感染症研究所などによると、現行のワクチンは英国型には有効とされるが、南アやブラジル型への効果は確認されていない。ワクチン製造企業からは、念のため改良を準備すべきだとの声が強まり、英製薬大手アストラゼネカは南ア型向けに改良に着手したと表明している。

感染者数が世界最多の米国でも三つ全ての変異型を確認。英国型は今年三月までに主流になり、感染再拡大を招く恐れがあるとして警戒している。(共同)

初の国内クラスター

英変異株 埼玉の男女ら9人

厚生労働省は三十日、埼玉と東京の四十～六十代の男女五人が、英国で広がる変異した新型コロナウイルスに感染したのを確認した。このうち埼玉の男女三人は既に英変異ウイルス感染が判明している男

性の職場の同僚や顧客だった。厚労省は変異ウイルスでは初のクラスター(感染者集団)が職場で発生したとみている。

もう一人の埼玉の女性は、既に英変異ウイルス感染が判明している女性の家族。この家族も同じ職場の同僚で、職場とつながる感染は計九人になる。

東京の男性は二十九日に感染が判明した五十代の女性と濃厚接触歴があり、女性はこの男性からうつったとみられる。国内で確認された変異ウイルスの感染者は計六十四人となった。